教育講演３　12月14日（土）10:10～11:10　第３会場

WHO分類第5版 改訂のポイント ～骨髄異形成腫瘍～

千葉　拓也
岩手医科大学附属病院　中央臨床検査部

骨髄異形成腫瘍（myelodysplastic neoplasms；MDS）は，造血幹細胞の異常に起因したクローン性造血器腫瘍である．血球の異形成と無効造血を特徴とする疾患群であり，細胞形態学的所見，染色体所見と他の血球減少をきたす疾患の除外による総合的な診断が基本となる．

このたび造血器腫瘍のWHO分類第5版が刊行される運びとなり，MDSにおいても疾患名称および病型区分において変更があった．従来の骨髄異形成症候群（myelodysplastic syndromes；MDS）の呼称は，腫瘍的意味合いが強調され、骨髄異形成腫瘍に名称変更された。また，従来の細胞形態観察による病型区分に新たに遺伝子異常による病型が追加された．これら名称変更および病型区分の変更は，これまでの遺伝子情報の蓄積によるものである．しかし，MDS診断・病型区分において細胞形態観察が基本であることに変わりはない．鏡検に携わる臨床検査技師は，採血データと細胞形態から客観的な情報を臨床側に報告することが重要となる．

本講演を通じて，病態と検査値，細胞形態観察の流れ，形態異常所見における注意点について整理したい．また，実際の日常検査で遭遇した際のアプローチ方法について症例を交えて概説したい．